

## Ⅲ 環境との共生をめざして

21世紀の地球上の人口は、100億人を突破することが予想され、大量の資源の消費が、すべての生物の生存と文明に対する危機になると警告されています。地球時代の到来の中で、その一員として、地球環境の保全を視野に入れた持続可能な社会づくりに取り組みます。

### 施策体系

- 1 環境への負荷の少ない社会づくり
  - (1) 公害の防止と生活環境の保全
 

(主要施策109) 化学物質等の環境影響低減化の推進  
 【追加】環境ホルモン対策の推進
  - (2) 廃棄物対策の総合的推進
- 2 多様な自然環境との共生
  - (1) 自然環境の保全
  - (2) 豊かな自然とのふれあい
- 3 地域からの地球環境保全
  - (1) 地球環境保全対策の推進
  - (2) 国際協力の推進
- 4 環境を守る協働のしくみづくり
  - (1) 循環型社会の形成と定着
  - (2) 参加による環境の保全と創造

#### 1 環境への負荷の少ない社会づくり (1) 公害の防止と生活環境の保全

#### (主要施策109) 化学物質等の環境影響低減化の推進

有害性が指摘されている化学物質などについて、その実態を把握するとともに、排出抑制指導や安全情報提供等のしくみを整備し、環境リスク（環境中に排出された化学物質に起因する人の生命・健康等への悪影響の程度）の低減化を図ります。

##### 【既存の構成事業】

①化学物質環境リスク低減対策の推進、②電磁波環境影響調査の実施

#### 【追加】

構成事業	事業計画		現況
	2000～2002	内容	
③環境ホルモン <sup>*1</sup> 対策の推進  (主体：県)	基礎的な調査の推進  事業者における適正管理  的確な情報提供等	・大気等の環境モニタリング調査 ・食品、食器、水道水等の実態調査 ・農作物への影響の調査 ・水生生物に対する影響に関する調査  ・P R T R制度 <sup>*2</sup> の導入・普及  ・県民・事業者に対する情報提供、普及啓発	モニタリング調査等の左記の取り組みは、現在も実施中

<sup>\*1</sup>環境ホルモン…人や野生生物の内分泌作用を攪乱し、生殖機能障害等を引き起こす可能性のある外因性内分泌攪乱化学物質。

<sup>\*2</sup>P R T R制度…環境汚染物質排出・移動登録制度 (Pollutant Release and Transfer Register)

事業者が対象となる有害化学物質の種類ごとに、事業所から環境中への排出量や廃棄物としての移動量を自ら把握し、その結果を行政に報告し、行政はそれを公表する制度。